

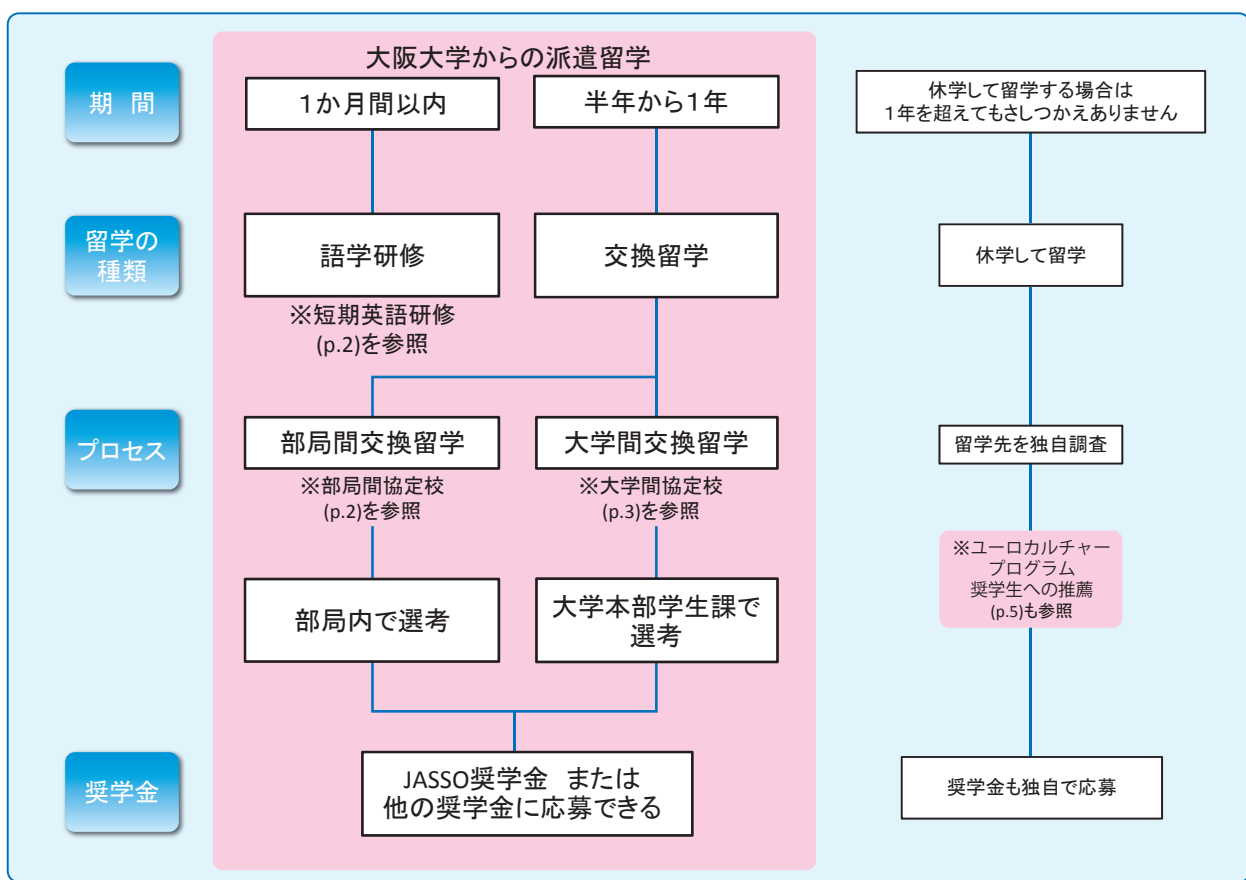


## 留学のチャンスを活用しましょう！

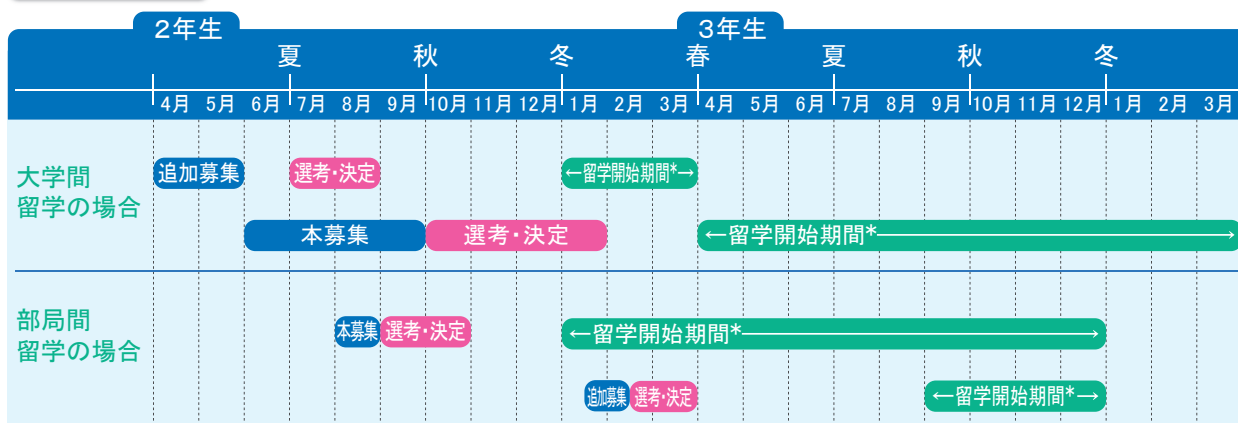
大阪大学では学部生・大学院生の海外留学を推奨しています。

このパンフレット掲載の情報は、[文学研究科・文学部のホームページ](#)でご確認いただけます。

文学研究科・文学部 HP » 国際交流 » 広報・記録 <https://www.let.osaka-u.ac.jp/ja/international/publication/c9rszo>



### タイムライン



\*留学開始時期は受入大学の学期開始時期による

## A. 留学情報 役に立つ説明会が実施されています

- ★「海外留学オリエンテーション」(国際学生交流課主催) 4月末に各キャンパスで開催。  
語学研修、国際交流科目などについての説明があります。
- ★「海外留学フェア」(国際学生交流課主催) 4月末に豊中キャンパスで開催。
- ★「大学間交換留学オリエンテーション」(国際学生交流課主催) 5月から6月にかけて、各キャンパスで開催。  
交換留学(大学派遣)についての説明があります。
- ★「人文学研究科(旧文学研究科)・文学部 留学説明会」5月開催。  
人文学研究科(旧文学研究科)・文学部の交換留学、語学研修の体験談、留学の応募から出発前の準備の様子などを紹介します。  
☆パンフレット「海外留学にチャレンジしてみよう！」 阪大生のための「海外留学ガイドブック」  
[https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/outbound/ex\\_students.html](https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/outbound/ex_students.html)

## 留学の種類と語学研修

- ★短期英語研修 [数週間程度] 夏休みや春休みに英語研修が実施されています。\* 2021年度は中止かオンライン実施となりました。

プログラム名	募集時期 (2021年度情報)	実施時期 (2021年度情報)
ヨーク大学 夏季語学研修プログラム*	5月中旬	8月下旬～9月下旬(5週間) (2021年度は中止、2020年度の情報)
トンプソンリバーズ大学夏季語学研修プログラム*	5月上旬	8月上旬～8月下旬(3週間) (2021年度はオンライン実施)
マヒドン大学夏季語学研修プログラム	5月中旬	8月下旬～29月下旬(5週間) (2021年度は中止、2020年度の情報)
エンデランカレッジ春季語学研修プログラム*	11月下旬	2月上旬～3月上旬(4週間) (2021年度はオンライン実施)
モナシュ大学 春季語学研修プログラム*	10月中旬から11月上旬 (2020年度の情報)	2月末～3月末(3週間) (2021年度は中止、2020年度の情報)

\*「国際交流科目」として単位修得できるプログラム ☆募集情報は大阪大学のHP、KOANでご確認ください。

※ 最新の情報は大学HPを参照、[https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/outbound/ex\\_students.html](https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/outbound/ex_students.html)

- ★交換留学 交流協定校へ1学期以上、1年未満の期間での留学

- ✓ 交換留学制度を利用する場合、大阪大学を休学することはできません。「留学」という身分になります。
- ✓ 留学中は大阪大学の学費を本学に納入します。多くの場合、留学先大学へ授業料を支払う必要はありません。
- ✓ 留学先で取得した単位は、所定の手続きを経て大阪大学で取得した単位として認められることがあります。
- ✓ 応募するには TOEFL iBT80 又は IELTS (アカデミック・モジュール) 6.0 以上の英語力が必要です。  
留学先大学によって語学基準が異なります。

- ◆人文学研究科(旧文学研究科)・文学部の学生が海外留学のために利用できる交流協定には下記の2種類があります。

### 1. 部局間交換留学人文学研究科(旧文学研究科)・文学部は以下の大学と学生交流協定を結んでいます。

イギリス	マンチェスター大学	人文学部
	イーストアングリア大学	
	ロンドン大学ゴールドスミス校	
イタリア	ウーディネ大学	法学部
ポーランド	ヤギェロン大学	国際政策学部
スウェーデン	ウプサラ大学(*修士・博士前期のみ)	神学部
チェコ	オロモウツ パラツキー大学	文学部
ドイツ	ハイデルベルク大学	日本学研究所
	ゲッティンゲン大学	社会科学部
フランス	パリ大学	
中国	上海戯劇学院 *院生のみ	
	西北大学	文化遺産学院
韓国	韓国芸術総合学校	演劇院
タイ	チュラロンコン大学 *院生のみ	アジア研究所
台湾	国立台湾師範大学	文學院
		国際与社会科学学院

部局間交換留学の募集・選考予定は以下の通りです。

募集	8月(本募集)	1月～2月(追加募集)*
選考	9月～10月	2月～3月
留学開始	翌年1月～12月	9月～12月

\* 大学によっては募集枠のない場合があります。

## 2. 大学間交換留学

大阪大学は世界各地の約 141 大学と交流協定を結んでいます。(2021 年 12 月 1 日現在)  
大学 HP 参照 <https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/action/exchange> )

募集	5月下旬頃	9月下旬頃
選考	7月～8月	10月～翌年1月
留学開始	翌年1月～3月	翌年4月～翌々年3月

※スケジュールは変更される可能性があります。

[https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/outbound/ex\\_students.html](https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/outbound/ex_students.html)

## バーチャル交換留学プログラム

### バーチャル留学について

大阪大学ではポストコロナの状況を展望し、海外の大学等からオンラインで提供されるプログラムを学生が履修する場合、一定の条件を満たす者\*に対して単位を付与し、また「留学」として認定します。

\*一定の条件を満たす者とは、以下の通りです。

- ① 「グローバル人材育成研修」(グローバルイニシアティブセンター提供科目)の単位修得者及び同等の活動を行った者
- ② 全 15 コマ中 8 コマ以上の講義が、海外の大学や研究機関所属のゲストスピーカーにより日本語以外の言語で提供される科目の単位修得者
- ③ 本学が海外大学等に委託して実施するオンライン短期語学研修又は協定校などの海外大学が提供するオンライン短期語学研修に参加し、当該プログラムを修了<sup>(注)</sup>した学部生及び大学院生(本学による単位認定の有無は問わない)
- ④ 協定校などの海外大学の正課講義を、受講登録したうえで公式にオンライン受講した学部生及び大学院生(本学による単位認定の有無は問わない)

(注) : 海外大学等が公式に発行する transcript (成績証明書)により修了が確認できるものであること  
以下に一例を紹介しします。詳しくは国際連携室まで、お問い合わせください。

### ★ APRU Virtual Student Exchange Program (VSE)

VSE は ARRU (Association of Pacific Rim Universities (環太平洋大学協会)) 加盟大学が提供する授業科目から構成されるオンラインプログラムです。詳細は、以下ウェブサイトを確認してください。

- ✓ VSE ウェブサイト <https://vse.apru.org/>
- ✓ VSE ウェブサイト Application <https://vse.apru.org/application/>
- ✓ VSE ウェブサイト授業科目一覧 <https://vse.apru.org/course202101/>  
(申請期限は大学毎に異なります。詳細は、VSE ウェブサイト授業科目一覧をご覧ください。)
- ✓ Co-curricular programs <https://vse.apru.org/co-curricular-programs/>

### ☆対象者

本学に在籍する学部学生

### ☆申請方法

申請は、VSE ウェブサイトで行います。詳細は「VSE ウェブサイト Application」を確認ください。以下は手順の概要です。

- ① ウェブサイト上で申請書 (Application Form) を提出する。
- ② ①の後、申請書入力内容の詳細と成績証明書をダウンロードするためのリンク先を知らせるメールを受信する。
- ③ ②のメールを本学 APRU VSE コーディネーター  
(国際部国際企画課国際交流係、メール: [kokusai-koryu-suisin@office.osaka-u.ac.jp](mailto:kokusai-koryu-suisin@office.osaka-u.ac.jp)) に転送する。
- ④ 本学 APRU VSE コーディネーターが申請内容を確認後、VSE オフィスに連絡。

★①～③の手続き後、VSE オフィスと履修申請した授業科目を提供する大学が申請書等の書類を確認します。授業科目の履修が認められると VSE オフィスからメールが届きます。その後、提供大学から詳細な登録方法等について案内があります。

※ APRU は、環太平洋地域を代表する大学の学長で構成される組織で、各国の高等教育の相互協力関係を強め、環太平洋地域社会にとって重要な諸問題 (例えば経済発展、都市化、技術移転、大気汚染、資源枯渇等) に対し、教育・研究の分野から協力・貢献することを目的として 1997 年に設立されました。現在は、環太平洋地域から 61 大学 (2022 年 3 月時点) が加盟しており、各大学にてワークショップ、シンポジウム、国際会議等の様々なプログラムを実施しています。大阪大学は設立当初からメンバーとして加盟しており、各種イベントに学生及び研究者を派遣しています。

※ 登録費用 : 必要な登録料等は一部支給します。詳細は国際連携室まで、お問い合わせください。

## B. 奨学金情報 (2021年度実績)

(奨学金の募集条件等は変更される可能性があります。2022年度に募集される奨学金情報は、順次、大学のホームページ、KOAN等で案内されます。)

大阪大学 HP » 国際交流・留学 » 大阪大学から海外留学したい方 » 留学助成制度  
<https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/outbound/scholarship>

### 1. 独立行政法人日本学生支援機構 (JASSO) 実施の奨学金

支給型・・・応募要件等を確認のうえ、人文学研究科 (旧文学研究科)・文学部研究科豊中事務部の教務係に応募書類を提出してください。

協定派遣	学部・大学院の正規生 (外国人留学生を除く) 3ヶ月以上12ヶ月以内の交換留学	月額10・8・7・6万円 月額支給額は地域により異なる
大学院学位 取得型	以下の全てを満たす者 (外国人留学生を除く) ①申請時に本学学部・大学院に在学する正規生 又は最終学位を本学正規課程で取得した者 ②JASSOが定める「応募者の要件」を満たす者	月額89,000円～148,000円 (地域により異なる) 授業料 (上限1万米ドル)

他にも、貸与型の「第二種奨学金」(短期留学)・(海外)があります。  
 詳細は下記ホームページ (<https://ryugaku.jasso.go.jp/scholarship/>) をご覧ください。

### 2. 大阪大学の奨学金 未来基金グローバル化推進事業

応募要件等を確認のうえ、人文学研究科 (旧文学研究科)・文学部教務係に応募書類を提出してください。

交換留学奨学金	学部・博士前期課程の正規生 交換留学 (3か月以上1年未満)	月額5万円
研究留学助成金	大学院生 (正規生) 研究留学 (3ヶ月間以上10ヶ月間程度)	往復渡航費: アジア地域10万円、その他地域20万円 奨学金: 月額10・8・7・6万円 (留学先による)
住友化学グローバルリーダー 育成奨学金	学部・大学院生 (正規生) 留学 (3ヶ月間以上)	留学期間6か月未満: 60/80万 留学期間6か月以上: 90/120万

### 3. 文学部の奨学金 教育ゆめ基金

交換留学する**文学部学生**を対象とした奨学金です。1年に2回(6月と1月)募集します。

文学部・文学研究科 HP » 国際交流 » 海外留学・研修 » 交換留学 (部局間) について » 「4. 教育ゆめ基金」  
<https://www.let.osaka-u.ac.jp/ja/international/exchange/inter-faculty>

### 4. その他の奨学金

\* 日本学生支援機構「海外留学の奨学金」のページ [https://ryugaku.jasso.go.jp/scholarship/scholarship\\_other/](https://ryugaku.jasso.go.jp/scholarship/scholarship_other/)

\* 「官民協働海外留学支援制度～トビタテ! 留学 JAPAN 日本代表プログラム～」

対象: 学部・大学院に在籍する正規生 28日以上2年以内 (3か月以上推奨) 留学する者  
 支給額: 月額6～16万円 (経済状況や留学先地域による)

## C. 外国語による授業

[https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/inbound/exchange\\_program/eng\\_course](https://www.osaka-u.ac.jp/ja/international/inbound/exchange_program/eng_course) (英語開講授業リスト)

### 1. 全学共通教育科目の外国語による授業

### 2. 国際交流科目

全学の先生方が、その専門に応じて英語による講義を提供しています。

### 3. 外国語による発信力を育成するための科目

“Basic Academic Skills for Humanities” “Introduction to Contemporary Japanese Studies” などの外国語によるアカデミックスキルを育成する授業を開講しています。

### 4. エラスムス・ムンドゥス英語授業 "Contemporary Japan in the Global Context"

10月から12月に開講されます。(修士課程以上)

## D. 語学能力について

英語の場合 各大学の必要要件を調べましょう。セクションごとに足切り点がある場合もあります。

- ・ TOEFL アメリカやカナダなど北米の大学に応募する場合一般的に用いられます。試験はコンピューターで4技能(リスニング、リーディング、ライティング、スピーキング)を測定する試験です。
- ・ IELTS イギリスやヨーロッパ、オセアニア、アジア圏などで一般的に用いられます。特にイギリスの場合は、IELTS UKVIの指定がある場合もあるので確認しましょう。また、学生ビザ申請のための足切り点もあります。筆記試験と、スピーキングの面接があります。

英語以外の外国語の場合

当該外国語の語学能力試験のスコアの提出、もしくは大阪大学で行われている当該ネイティブ講師による語学能力を証明する文書の提出によって判断します。大学間では、交換留学応募時に公式の語学能力証明書を求められることがあります。

**国際連携室に試験対策用の参考書がありますのでご利用ください。貸し出しもできます。**

## ★正規留学 学位取得を目指し、国外の大学や研究機関へ留学

### ▼エラスムス・ムンドゥス修士課程への留学 ユーロカルチャープログラム奨学生への推薦

EUが運営するErasmus Mundusプログラムのひとつに、ユーロカルチャー (Euroculture) があります。豊富なカリキュラムを通じ、現代ヨーロッパの文化・社会・政治について、EU圏内の大学で多角的に学べるプログラムです。

大阪大学文学研究科は同プログラムのパートナー校として、大阪大学の卒業生と大学院生の中から毎年若干名を推薦しています。2年間、EU圏内の以下の8大学のうち2校へ留学でき、修了後はその2校から修士号が得られます。詳細は文学部・文学研究科の関連ページ([HP](#) » [国際交流](#) » [Erasmus Mundus](#))をご覧ください。 ※2022年4月以降HPが変わる可能性があります。

コンソーシアム参加校：グローニンゲン大学 (オランダ)、ゲッティンゲン大学 (ドイツ)、ウプサラ大学 (スウェーデン)、ヤゲロニアン大学 (ポーランド)、パラツキー大学 (チェコ)、デウスト大学 (スペイン)、ウーディネ大学 (イタリア)、ストラスブール大学 (フランス)

毎年10月に説明会を実施していますので興味のある方はご参加下さい。

11月に学内選考を行い奨学生候補を選出しています。





## 留学体験記

### ハイデルベルク大学への留学

ドイツ文学専修 4年 渡邊彩音

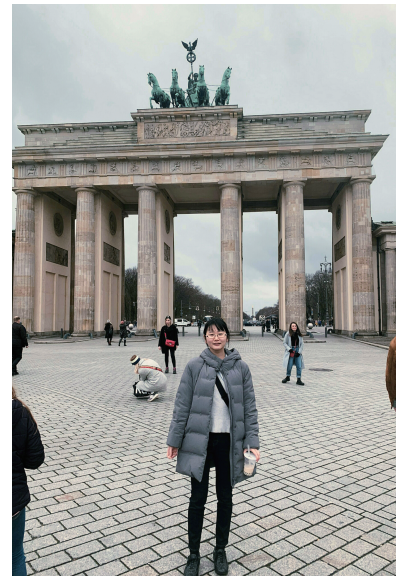
ドイツ ハイデルベルク大学 (部局間派遣、派遣時 学部4 年)

私は2020年3月から1年間ハイデルベルク大学へ留学する予定でしたが、コロナの影響で途中帰国せざるを得ませんでした。思い出せば、中国への渡航歴を理由にドイツ行の便への搭乗を拒否されたことに始まり、ドタバタの中帰国してからも羽田で足止めされたり隔離生活を送ったりと、コロナに振り回された話題に事欠かない留学でしたが、ここでは留学先に行く前にベルリンで過ごしたときの話を中心に紹介しようと思います。

私は大学間での交換留学とは関わりなく、春休みの間ベルリンのゲーティンステュートを利用していました。語学学校は大学とは異なって生徒の年齢層が高く、既に仕事を持ち生活の基盤をドイツに置いている人も大勢いました。私はというと、午前中は街を歩き回り、午後は授業を受け、夜や休日には仲良くなったクラスメイトと食事に行ったり、学校が提供する講義やガイド付きのツアーに参加したりと、解放的な毎日を満喫していました。ただ、残念ながらドイツの冬は寒く、晴れる日も殆どなかったのも、もしドイツを留学先に考えていらっしゃる場合は春と夏を体験できる期間にすることをお勧めします。

自分の研究との関連から、いくつかの強制収容所跡や第二次世界大戦関連の博物館や資料館にも

足を運びましたが、とりわけ心に残っているのはラーフェンスブリュックという女性用の強制収容所跡です。内部で行われていた出来事について資料を読んでから塲の外に出たとき、夕日に照らされた湖や立木がとてもきれいに見え、壁一枚で隔てられた世界のあまりの違いに恐ろしさを感じました。今は様々なことがネットを通して可能になり、コロナ禍においてその傾向に拍車がかかっているようにも見えますが、それでも自分で現地に行き体験することでも残らないものもあると思います。皆さんがコロナの心配なく留学生活を楽しむことができる日が早く来ることを祈っています。



ベルリンのブランデンブルク門前

### イーストアングリア大学への留学

イギリス 4年 野田朝香

イギリス・イーストアングリア大学 (部局間派遣、派遣時学部3年)

海外に行ってみたくらいという気持ちから、なんとなく留学を考えていましたが、日本学専修での学びを通して、海外での日本研究を知りたいと思い、イギリスへの交換留学を志望しました。2019年9月～2020年6月までのプログラムでした。

留学大学は、イーストアングリア大学 (UEA) で、ロンドンから電車で2時間ほどの場所にあるノリッチという街で過ごしました。治安もよく、暮らしやすかったです。はじめは、言葉の壁や生活習慣の違いに戸惑うことも多かったです。私なりの困難の

克服方法は、無理をしないことでした。周りの「楽しそうな」留学生活を目指そうとするのではなく、マイペースに日々の授業や生活を送るなかで、だんだんイギリスでの暮らしに慣れました。

UEAでは、歴史学を専攻し、日本の近現代史や世界の歴史を学び、日本学専修の私にとっては、「日本」を相対的にみる力が養われたと思います。また、日々の生活のなかでも、寮の友人やクラスメイトと話しなが、これまでの「当たり前」を問い直すようになりました。

イギリスでの留学生活は、2020年の新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、予期せぬかたちで途中帰国となりました。帰国後もオンラインで授業を受講し、留学プログラムを修了することはできましたが、突然の帰国のショックは今でも忘れられません。しかし、6カ月間イギリスで過ごした思い出は尊く、再び渡英できる日を楽しみにしています。

予想外の出来事への対応も、留学を通して求められました。言葉がうまく通じない環境で不安も大きかったですが、「なんとかなった」ことが今となっては自信となり、新しいことにチャレンジする勇氣もつきました。

ノリッチは、小さな街ですが、大学からバスで30分のところに、ショッピングセンターやカフェがあり、かわいらしい街並みも楽しめます。日本ではあまり知られていませんが、ぜひ留学先の候補として検討してみてください。



ロンドン・キングスクロス駅にて。  
映画「ハリーポッター」のロケ地としても有名です。

## マンチェスター大学への留学

考古学専攻 1年 蓮井寛子

イギリス・マンチェスター大学 (部局間派遣、派遣時学部4年)

海外に行って色々見てみたいという好奇心と、若いうちに様々な経験をしたいという探求心に駆り立てられ、学部2回生の頃から留学を考えるようになりました。それから英語の勉強を始め、4回生のときによく留学に必要な英語テストをパスし、念願かなってイギリスのマンチェスター大学に留学することが決まりました。

留学してみると、やはり言葉の壁というのは大きな問題で、特にディスカッションの授業では思うように自分の意見を言えずに悔しい思いをしました。ただ、帰国後大学院で考古学を学ぼうと考えていたので、日本とイギリスで異なる研究アプローチ、親和性のある研究などを調べ、何とか対話のなかで自分の考えを述べることもできたときは、非常に面白かったです。この経験は今でも研究や発表など多くの面で役立っていると感じます。

より多様な価値観・考え方を受け入れられるようになったことも、留学によって自分が変わったことの1つです。自分のまわりの仲間は出身国も学部も年齢もバラバラで、自分が当たりまえだと思っていたことに対して驚かれたり、逆に自分が他の人の考えに驚いたりする場面は何度もありました。小さなことでいえば、授業で何千年も昔の人々が沖に出てマグロ漁をしていた証拠が紹介されたとき、隣にいたインド出身の女の子が、「ツナって手のひらサイズの小魚かと思っていた」と話してくれたことがあ

ります。その時は笑ってしまいましたが、常識は環境によって変わるという1例でしょう。マンチェスターという都市は移民も多く、食べ物や文化も多様な地域のもの混ざり合っている印象を受けました。

2ndセメスターの途中でコロナの流行が始まり、途中帰国せざるを得なくなってしまいましたが、留学のなかで友達と過ごした思い出や、色々考えさせられるなかで気付いたこと、必死になって勉強した知識などは、私にとって貴重な財産となっています。もしこの文章を読んでいる方で留学を迷っている方がいれば、ぜひ1歩踏み出してみれば？



Avebury へのフィールドトリップ

## Being a regular course student at the Graduate School of Letters

日本史学専攻(古代史) 博士前期課程1年

Emil Malthe Andersen

デンマーク出身留学生

My name is Emil Malthe Andersen, and I am from Denmark, where I also took my bachelor's degree in Japanese studies. I was accepted as a Research Student at the Faculty of Letters, Osaka University in April 2020 (though not being able to travel to Japan until October 2020) and entered the Japanese history master's program with a focus on ancient Japanese history in April 2021.

I do have previous experience as a short-term foreign student both in Japan and at Osaka University, but being a regular course student has been a totally different experience: All classes are in Japanese, and in the beginning it was certainly a challenge, but by now it does not feel that much different from taking classes in English or my native tongue. Additionally, as there are just about no other foreign students in the classes I take, I, of course, stand out. Nonetheless, everybody has been kind and welcoming. If your Japanese language abilities are there, I can definitely recommend entering a regular course at the Faculty of Letters.

Though I have only been here for a little more than a year, I can already say that; having wanted to do research on ancient Japanese history for a long time, entering the master's program at Osaka University has been extremely academically rewarding. Reading non-translated historical sources together with 10+ people who also focus on the same period in Japanese history as myself and being able to regularly discuss mine and other's research in depth has been indispensable for my studies. Similarly in-depth studies would likely have been nearly impossible outside of Japan.

In general, I have been impressed by the hard work and dedication of my fellow students. This has been a definite strong point of studying at

Osaka University.

As I arrived in Japan during the pandemic, I have still not experienced life at the Graduate School of Letters in non-pandemic times. The laboratory (there is a laboratory for each of the majors at the Graduate School of Letters) I am connected to, usually hosts a large number of events throughout the year, but all of them have been cancelled or held online during the pandemic. However, being connected to my laboratory has still been able to provide a place on campus for study and discussion with fellow students as well as a tight-knit community to be a part of.

All in all, I would say that being connected to the Japanese history laboratory has been the best part of studying at Osaka University.



Me at the entrance to Toyonaka Campus

編集・発行 文学研究科・文学部 国際連携室

望月太郎・モハンマド モインウッディン・松本 玲子

発行日 2022年3月31日

〒560-8532 豊中市待兼山町 1 - 5